

は し が き

リフレッシュ教育は、科学技術の急速な進展や社会構造の変化に対応するために、職業人を対象に、職業上必要な知識・技術を、大学等が実施する教育を指す。したがって、このリフレッシュ教育は、広い意味を持つ生涯学習やリカレント教育に含まれるが、より狭い意味で目的や学習者対象を明確にしたもので、社会的な要請から生まれたものである。

このリフレッシュ教育を実現するには種々の方法があるが、多忙な日本の職業人は、教育学習のために大学へ来ることは容易でない。そのため、通信衛星によってリフレッシュ教育プログラムを直接職場に送ることに対する期待が大きい。

この種の教育方法については、アメリカにおいて非常に普及しているが、我が国では初めての経験であることから、種々の観点から検討する必要がある。

そこで、本共同プロジェクト研究グループでは、通信衛星を利用したリフレッシュ教育を実際に実施し、その評価をすると共に、リフレッシュ教育の今後の展開について検討した。

本研究において実施した通信衛星リフレッシュ教育実験は、平成4年度に2回、平成5年度、6年度に各1回、合計4回である。そして、初年度の第1回実験と第2回実験では、幅広い啓蒙的な内容とし、2～3年度の第3回実験と第4回実験では、社会的ニーズの高い専門的内容を全国の企業等に配信した。また、最終の第4回実験では、衛星多元パネル討論会を開催し、リフレッシュ教育の推進について討論した。そして、通信衛星を利用したリフレッシュ教育の実現性を明らかにした。本研究報告書は、これら4回の実験について、その実施と成果をまとめたものである。

本報告をまとめるに当たり、4回の実験を実施した際に、講演、講義をいただいた末松安晴東京工業大学長（当時）、西澤潤一東北大学長、江崎玲於奈筑波大学長、福井謙一基礎化学研究所長、東京大学先端科学技術センターの15名の先生方、東京工業大学大学院情報理工学研究科の6名の先生方、並びに、最終回の衛星多元パネル討論会のパネリストの方々に深く感謝する。

また、リフレッシュ教育ということからご指導いただいた遠山敦子高等教育局長（当時）、本間政雄専門教育課長（当時）、西阪昇リフレッシュ教育企画官（当時）に感謝する。さらに、本実験では、衛星による双方向コミュニケーションを実現したが、それぞれの会場をお引き受けいただいた多くの大学等の関係各位に、厚く御礼申し上げる次第である。

さらに、本プロジェクトを評価するに当たり、多くの方にアンケート調査にご協力いただくと共に、貴重なご意見をいただいた。紙面を借りて、御礼申し上げたい。

最後に、本プロジェクトを成功させるために、本センターの研究協力課をはじめ、多くの職員の方々の協力があって実現できたことを記して、謝意を表したい。

本報告書が、リフレッシュ教育の推進に寄与することができ、また、衛星通信をはじめとするマルチメディアの教育学習環境の高度化に、少しでも役立てば幸いである。

平成8年1月

共同研究主査
清水康敬